

11. 国立大学授業料・奨学金の 現状と将来展望

小林雅之（東京大学）

劉文君（東京大学）

吉田香奈（山口大学）

1

発表内容

- 国立大学授業料水準の設定
- 授業料減免と大学独自奨学金
- 2005年度調査と2008年度調査の比較(小林)
- 授業料水準の設定と授業料減免(劉)
- 大学独自奨学金の現状(吉田)
- 大学財政指標との関連(劉)
- まとめ(劉)

2

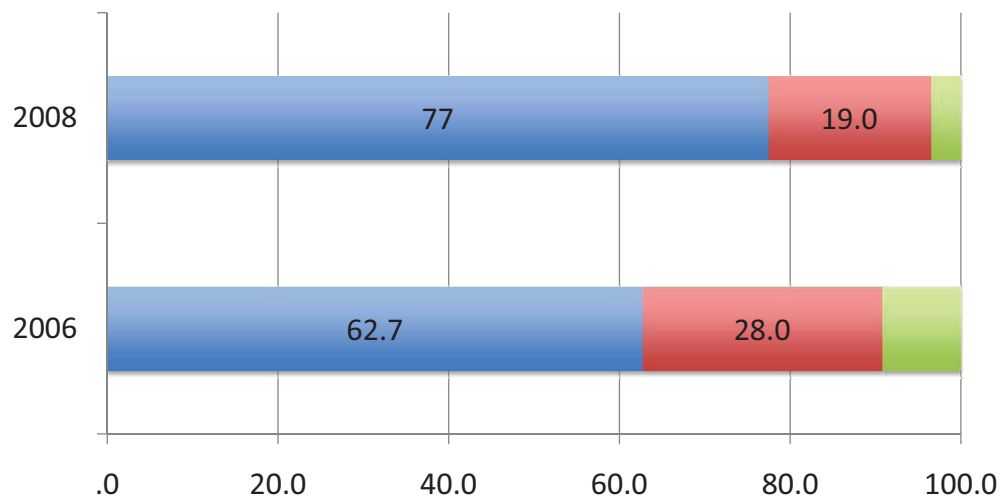
国立大学の授業料設定

- 法人化後、標準額に対して、各国立大学は、当初10%、現在では20%まで、値上げすることができる
- しかし、実際には、ほとんど標準額に設定されている
- 学士課程では、すべて標準額
- 大学院では、法科大学院などは独自の授業料設定だが、他はほとんど標準額
- 授業料は大学別学部(院)別に分化していない

3

授業料の設定方式について

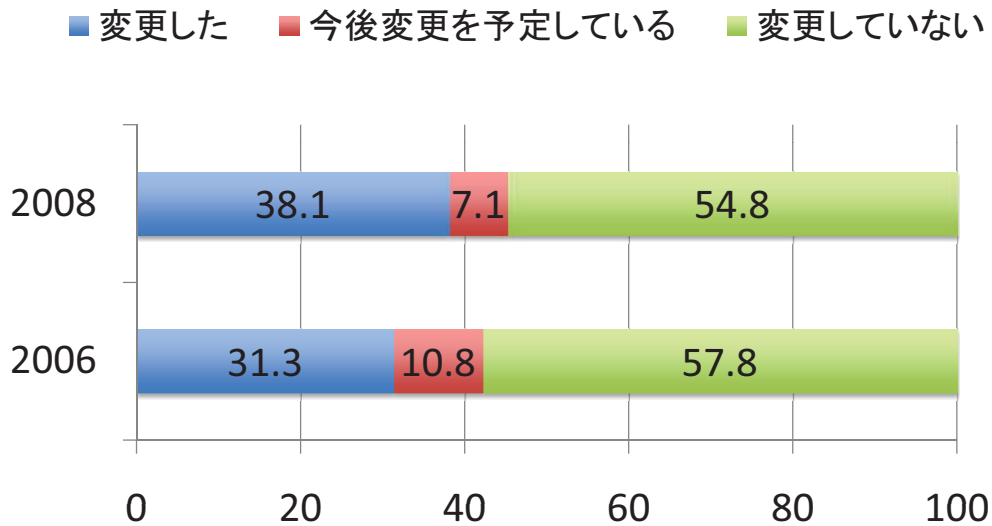
■ 現行の設定方式でよい ■ 裁量の余地を広げるべき ■ 裁量の余地を狭めるべき



4

授業料の減免方針

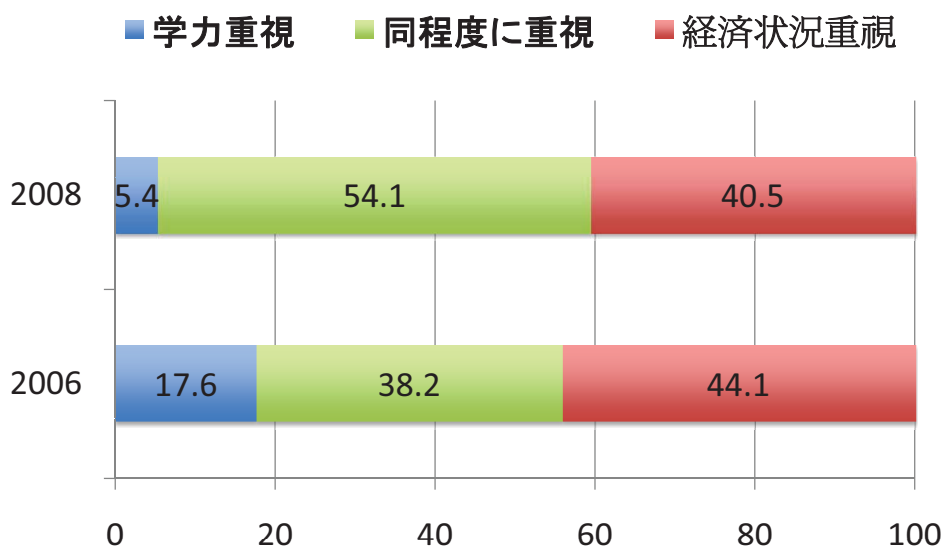
法人化2年目以降、授業料減免の方針を変化



5

授業料減免の基準(学部)

授業料減免方針(学部):減免の基準

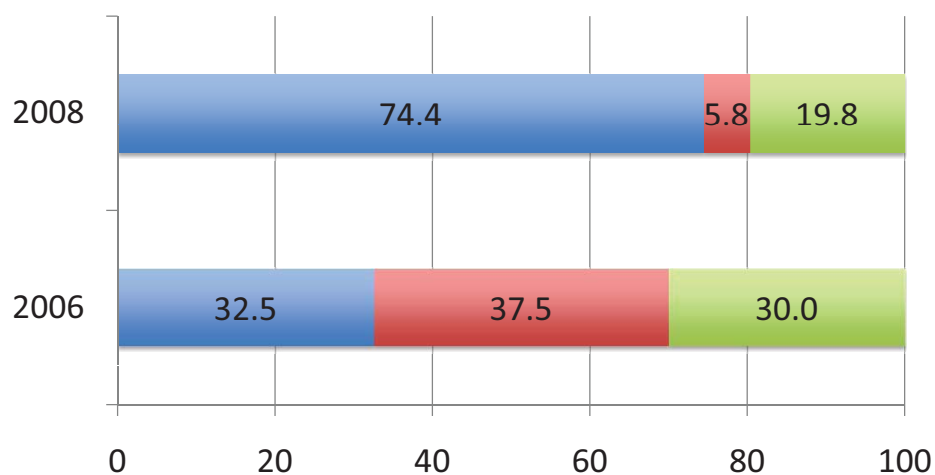


6

大学独自奨学金の有無

大学独自の奨学金の有無

■ある ■今後設置の予定 ■ない

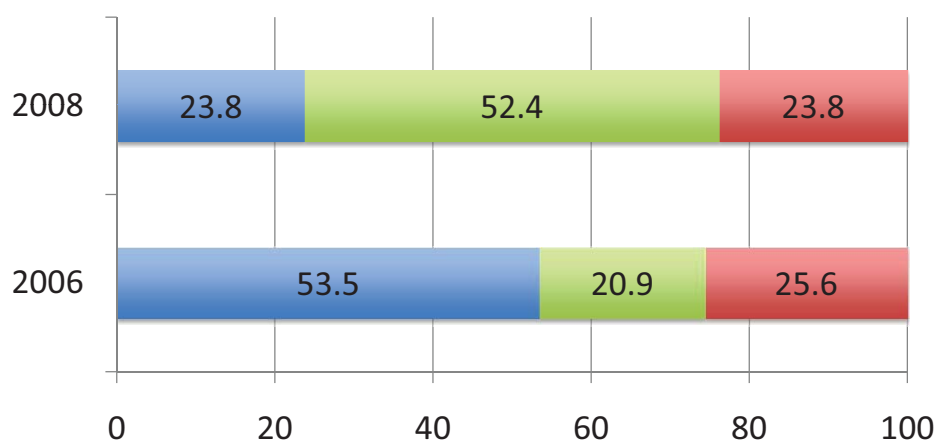


7

大学独自奨学金の基準(学部)

大学独自奨学金の方針(学部):給付の基準

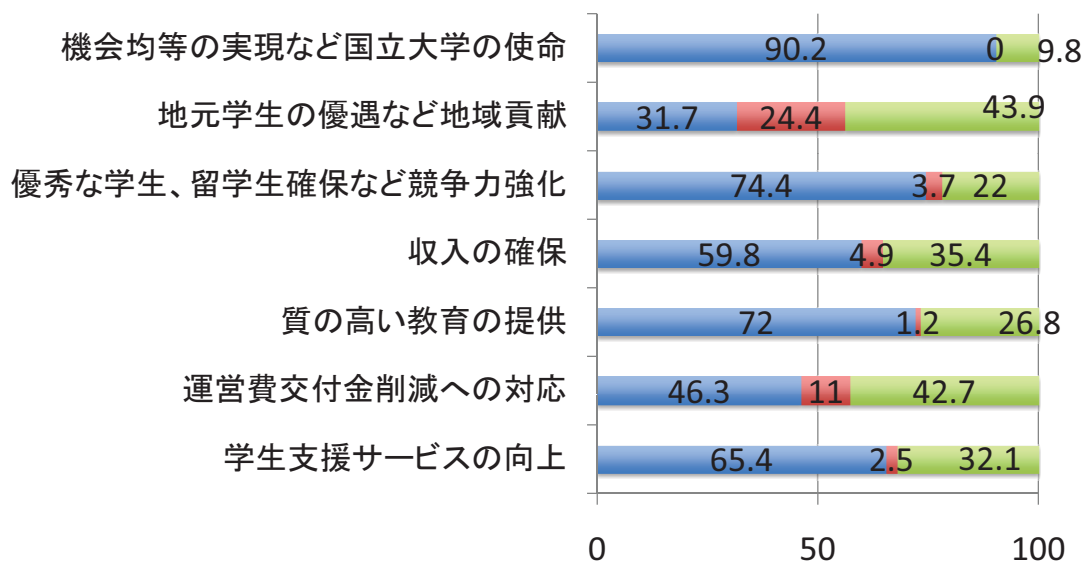
■学力重視 ■同程度に重視 ■経済状況重視



8

授業料設定 重視する項目

■ 重視する ■ 重視しない ■ どちらともいえない

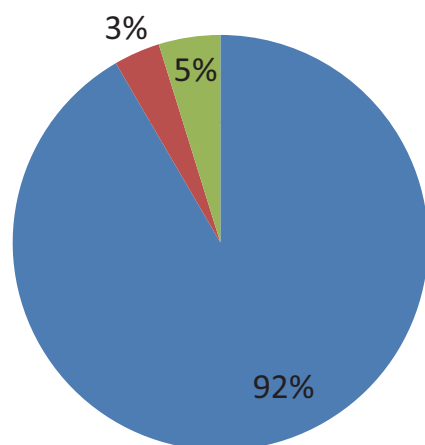


9

授業料設定についての意見

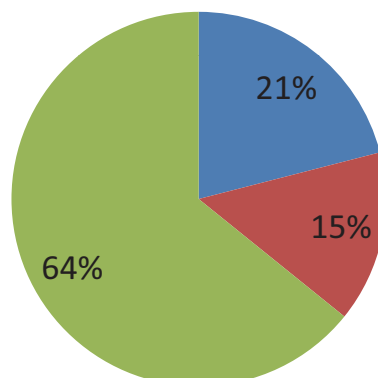
文科省が授業料標準額を設定

■ 賛成 ■ 反対 ■ その他



独自額が標準額の120%の範囲で

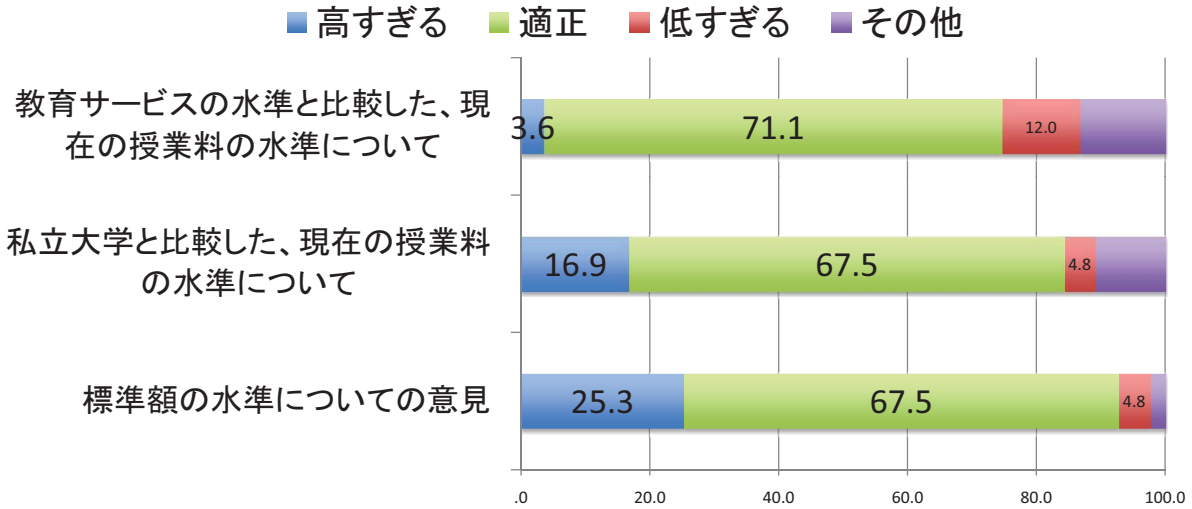
■ 自由度が小さすぎる ■ 自由度が大きすぎる ■ その他



10

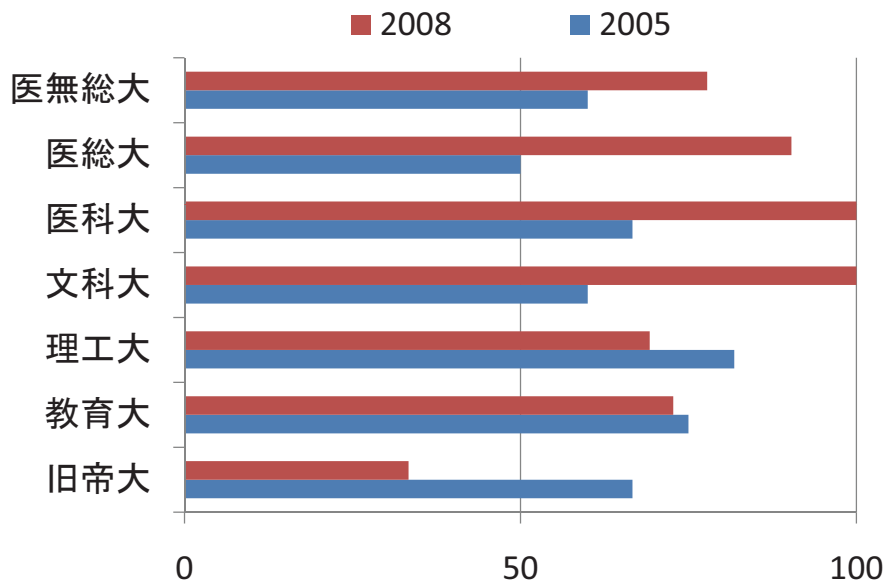
授業料の水準について

授業料の水準について

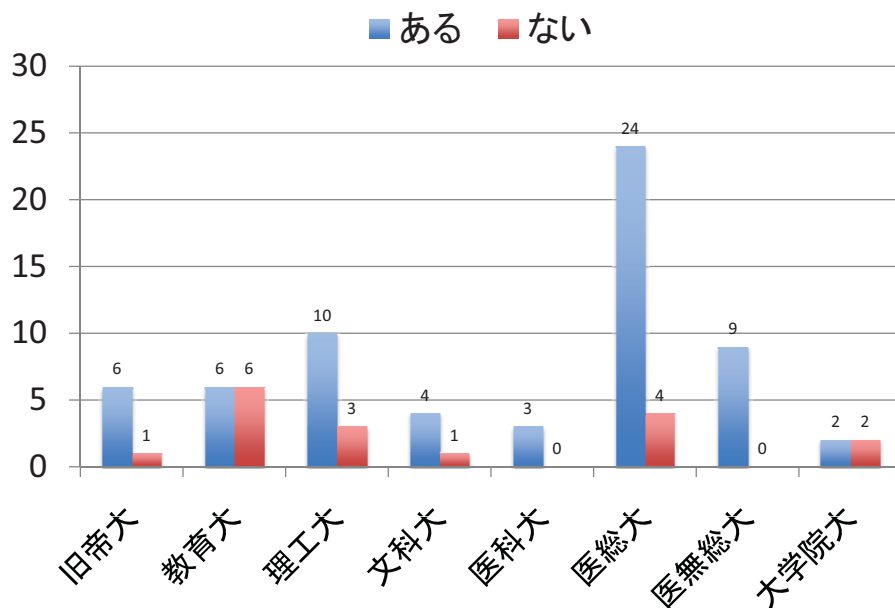


類型別授業料設定方式

現行方式でよい

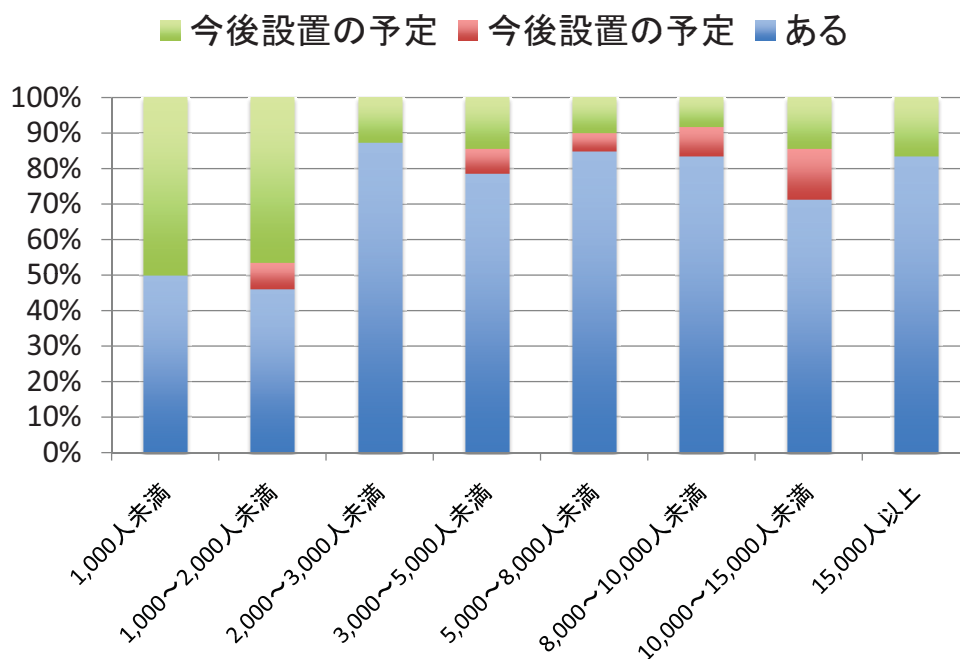


類型別大学独自奨学金の有無



13

大学規模別大学独自奨学金の今後の予定



14

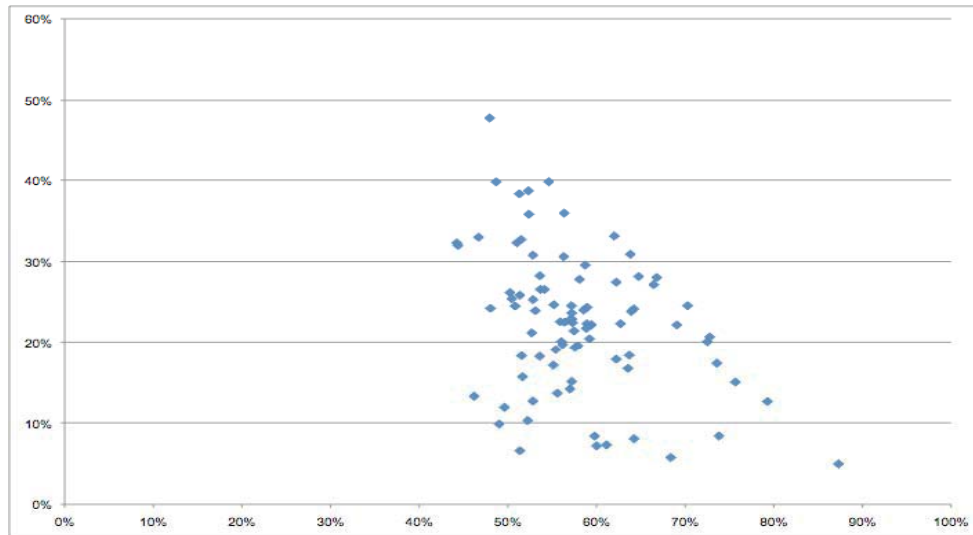
交付金依存度と学納金比率

交付金依存率【定義式】

(①:【PL】運営費交付金収益－【セグメント情報】附属病院の運営費交付金収益) / (②:【PL】経常収益－【セグメント情報】附属病院の業務収益) × 100

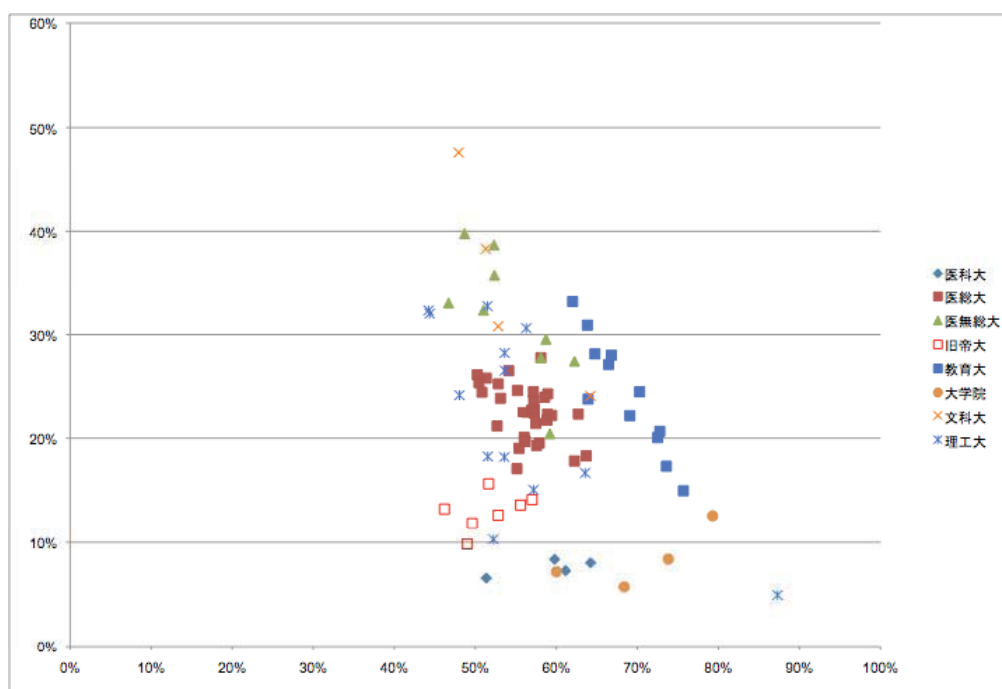
学納金比率【定義式】

(①:【PL】授業料収益＋入学金収益＋検定料収益) / (②:【PL】経常収益－附属病院収益) × 100



15

類型別交付金依存度と学納金比率

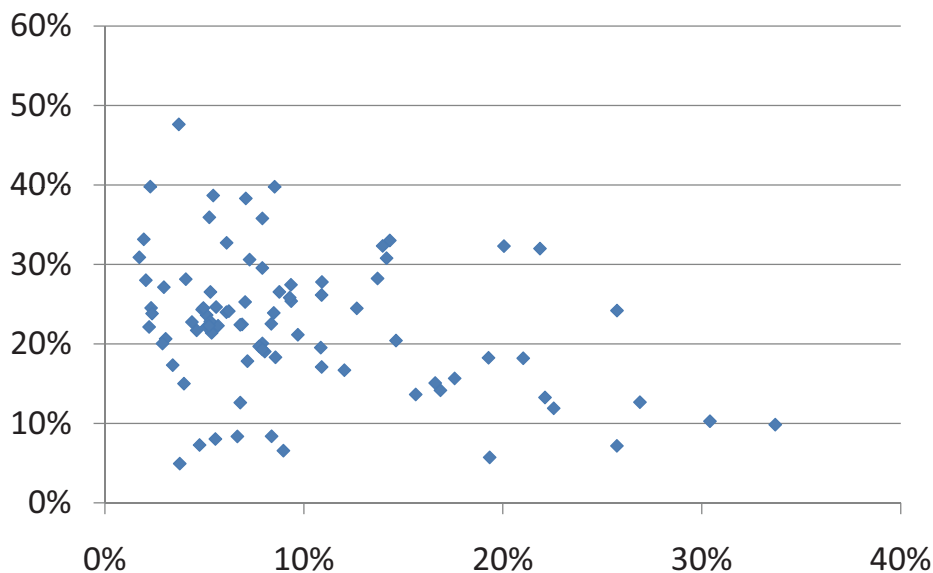


16

外部資金依存度と学納金比率

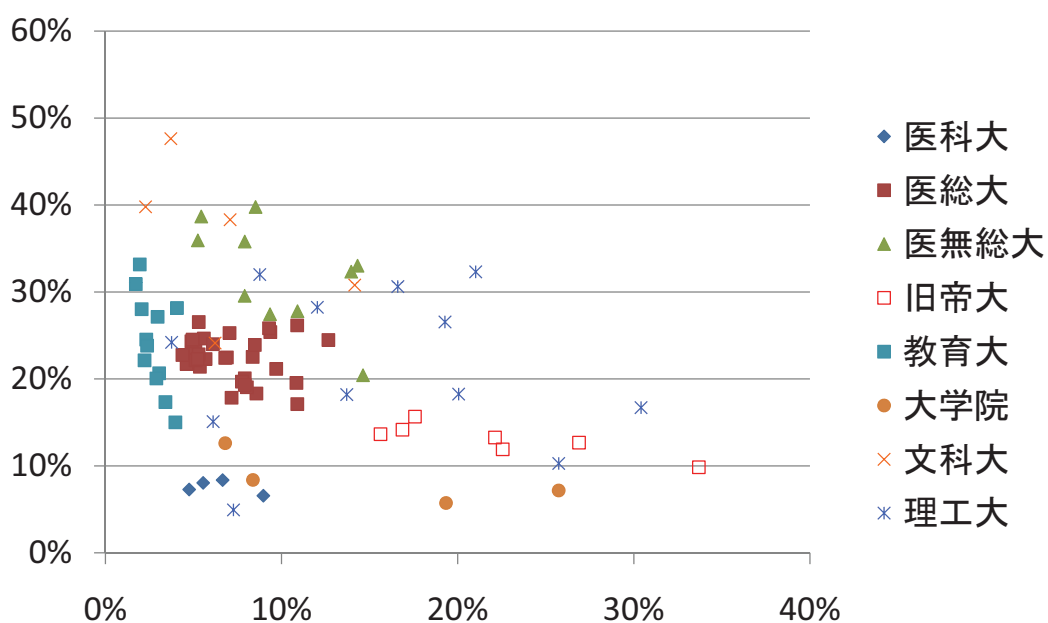
外部資金依存度【定義式】

(①:【CF】受託研究等収入＋受託事業等収入＋寄附金収入＋【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費)／(②:【決算報告書】収入計) × 100



17

類型別外部資金依存度と学納金比率

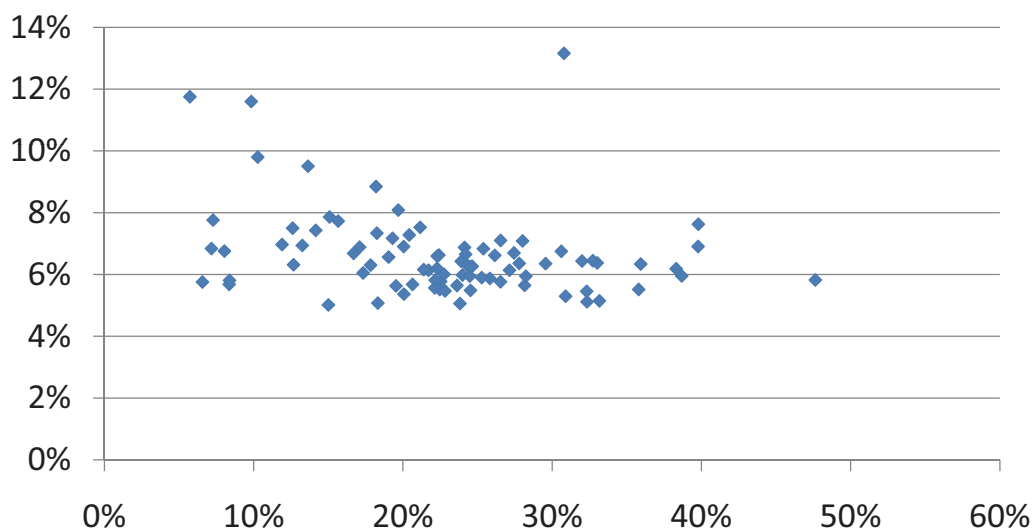


18

学納金比率と奨学金比率

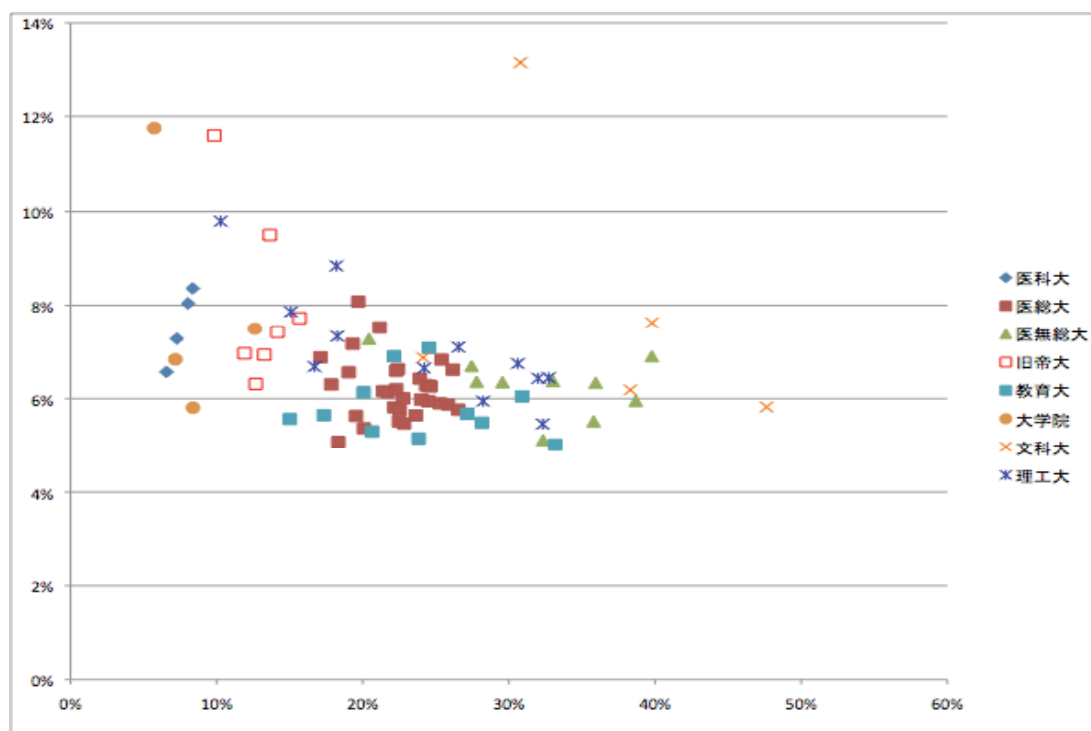
奨学金比率【定義式】

(①:【業務費及び一般管理費の明細】奨学費) / (②:【PL】授業料収益 + 入学金収益) × 100 1大学を除外(奨学金比率=38%)



19

類型別学納金比率と奨学金比率

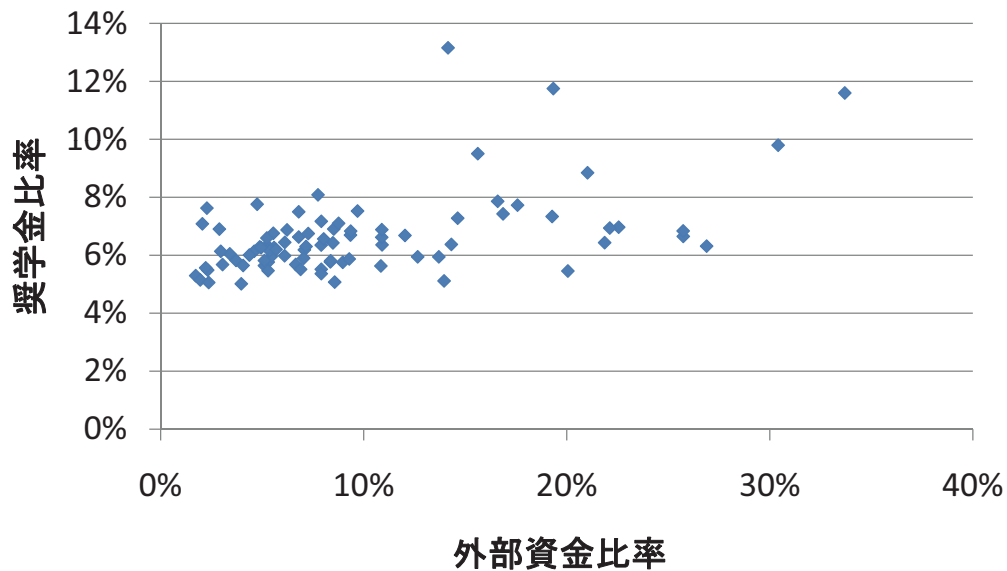


20

外部資金比率と奨学金比率

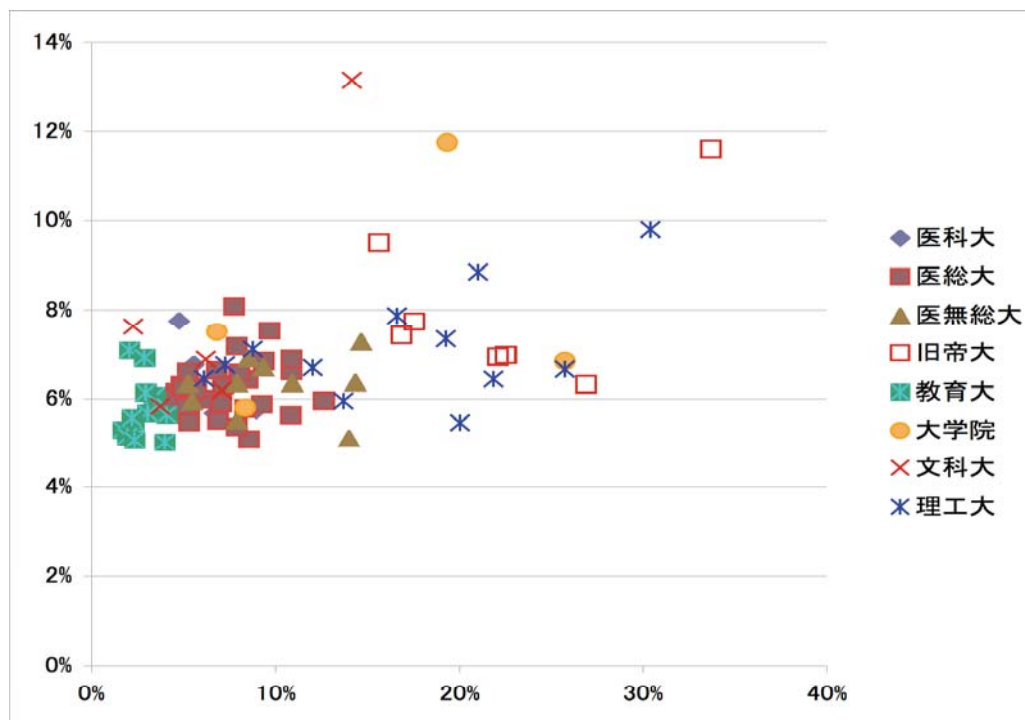
外部資金比率【定義式】

(①:【CF】受託研究等収入＋受託事業等収入＋寄附金収入＋【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費)／(②:【決算報告書】収入計)×100



21

類型別外部資金比率と奨学金比率



22

国立大学授業料と奨学金の動向と将来展望

- 授業料について法人化後にほとんど分化はみられない
- 授業料免除・大学独自奨学金の受給基準は、学力重視から経済状況重視に変化
- 学納金比率と交付金依存度には弱い関連がある。
- 学納金比率と交付金依存度は、大学類型による差は大きい
が、同じ類型内でも差がある
- 学納金比率は外部資金比率に弱く負に関連しているが、類型別及び個別大学の差も大きい
- 将来、授業料および奨学金にさらなる分化が起きるかどうかは予断を許さない